



▲ダイナミックに芸能を披露する藤間さん

10月21日に大津市の三井寺で開催された「ニッポンたからものプロジェクト」。日本遺産などの地域の文化や日本の芸能に触れる催しで、伝統芸能と三日月大造知事らによるトークショーが行われた。



▲笑顔で高校生の取材に応える三日月大造知事



特別版
発行
滋賀県立
虎姫高等学校
新聞部

滋賀を、日本を楽しむ

遺産と芸能で魅せる日本のたからもの

▼三日月知事に取材した高校生たち



今回のニッポンたからものプロジェクトで三日月大造知事がサプライズ出演し、高校生たちの取材を受けてくださった。滋賀の日本遺産を積極的に発信している

知事に聞く

祈り、守られてきた滋賀の遺産

私たちが自身で継承を

三日月知事はその魅力について「滋賀の遺産は長い歴史を持ち、自然と結びついており、多くの人々の暮らしのなかで祈り、守られ育まれてきた。特に三井寺は日本遺産の象徴で、景色や水が素晴らしい。多くの人とこの水遺産の原点を楽しめたいと思う」と語ってください。これからは日本遺産を継承し、生かすために「びわ湖を中心に環境を守りながら暮らせる持続可能な社会、特にこれからの

最後に滋賀の高校生へ、三日月知事は「自分は高校時代が一番楽しかった。成らぬことではないから、友人を大切にしながら夢を思い描いて、それに向かって努力を続けてほしい」と力強く語ってください。



国宝・三井寺で行われた伝統芸能で琵琶や歌舞伎音楽を披露された演奏家の方々に話を聞いた。琵琶を演奏された榎本百香さん(写真左)は琵琶を演奏することの魅力について「大学で琵琶を始めたが、気が付いたら好きになっていった。やりたいとあって伝統ありきではない。日本人の中にも芸能を知らない人が多いので発信していきたい」と強く語られた。

自分の気持ち を大切に

さらに三日月知事とともに滋賀の文化をおもしろくトークしてくれた方々にも話を聞いた。文化財の保存を進めている大沼芳幸さんは「文化財は化石ではない。伝えていくためには今の人が楽しめるようにしなければならぬ。今の世に

伝統ありきでない 楽しんでももらえる芸能を

▼熱く話すセイン・カミュさん(右)と大沼さん



の世代にバトンタッチするという意味でも、文化財は現代的、そして未来的な意味を持っている」と話された。また今回のニッポンたからものプロジェクトで旅人を演じた、司会をつとめたセイン・カミュさんは「何事も経験が大切。好きなものには人によって違うが、食わず嫌いはダメ。悪かったら悪いと言うのも聞かかけをするうえで大事で、答えは見つからなくてもいいから自分の気持ちを大切に、好きなことをやってほしい」と最後に語られた。



▲出演者のみなさんに取材。スイスから虎姫高校に留学中のマーティン君(写真右中央)も質問した。